英語圏文学・外国語教育学・教育社会学を統合した教養英語研究

関連するSDGsの国際目標



全学共通教育推進機構　　講師　　小泉　嘉輝
研究分野：英語圏文学、外国語教育、教育社会学

英米文学研究、英語教育実践、教育社会学的分析の三領域から得られた成果を統合し、現代の高等教育機関における教養英語教育のあり方を再構築することを目指している。文学作品の分析から得られる知見を教育に応用し、その成果を学習者の動機づけや社会的要因の観点から検証することで、思考力・判断力・表現力を豊かに備えた人材の育成につなげていきたい。

■小説を中心としたアメリカ文学研究

アメリカの自然主義もしくは西部出身の作家によって書かれた文芸作品、とりわけ小説を中心的対象として、人間・自然・社会の関係を軸に分析をおこなう。これらの作品に描かれる環境との対峙や生存をめぐる葛藤、社会構造の中での個人のあり方に注目し、テクストの精読を通じてその思想的背景を明らかにする。文学作品に表れる価値観や世界観を読み解くことで、英語圏文化に対する理解を深めるとともに、人間存在や倫理に関する普遍的な問いを提示することを目指している。

■文学教材を用いた英語教育の実践

英語による小説・詩・映画・歌詞といった広義の文学を教材として活用し、英語運用能力の向上に加えて、異文化理解力、批判的思考力、コミュニケーション能力といった分野横断的能力の育成を目指す。文学作品を通じて多様な価値観や社会的背景に触れ、それらについて考え、議論し、自らの言葉で表現する活動を重視する。こうした実践により、単なる知識の習得にとどまらず、学習者が主体的に意味を構築する力を養うとともに、言語を使って深く考える力を育てる教育モデルの構築を進めている。

■英語学習および教育の社会学的分析

英検やTOEICに代表される英語資格・検定試験と学習者の動機づけとの関係に着目し、英語学習の目的やその背後にある社会的背景を分析する。各試験が学習行動に与える影響や、内発的動機と外発的動機の相互作用を明らかにすることで、学習者がどのように英語と関わっているかを検討する。また、試験対策中心の学習と実際の言語運用能力との関係を批判的に捉え直し、英語教育のあり方を社会的文脈の中で再考することを試みている。

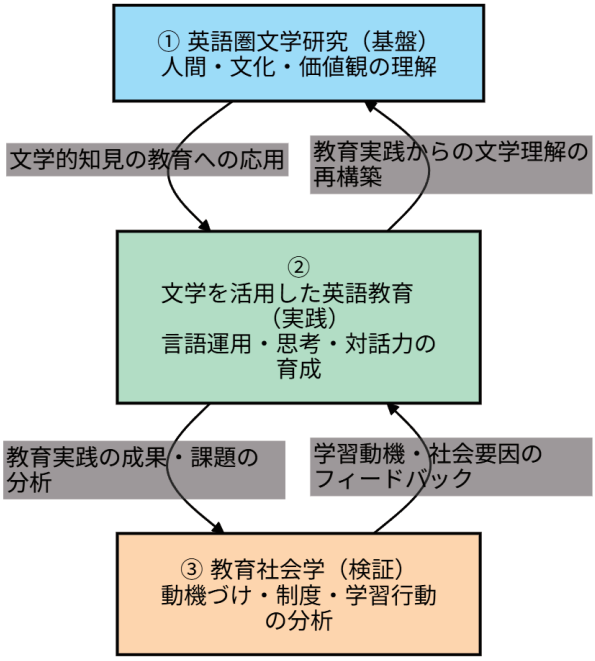


図　教養英語研究の循環モデル